

# 桐箱内部の湿度変化を測定しました

研究期間：令和5年度

担当者：会津若松技術支援センター 産業工芸科 齋藤 勇人、吉田 智

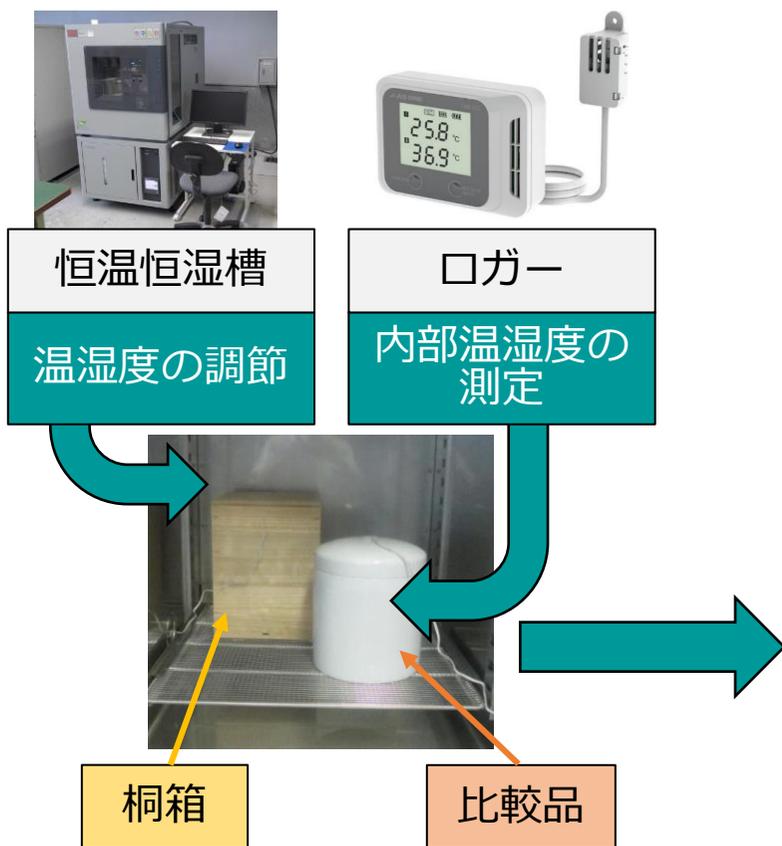


図1 試験方法

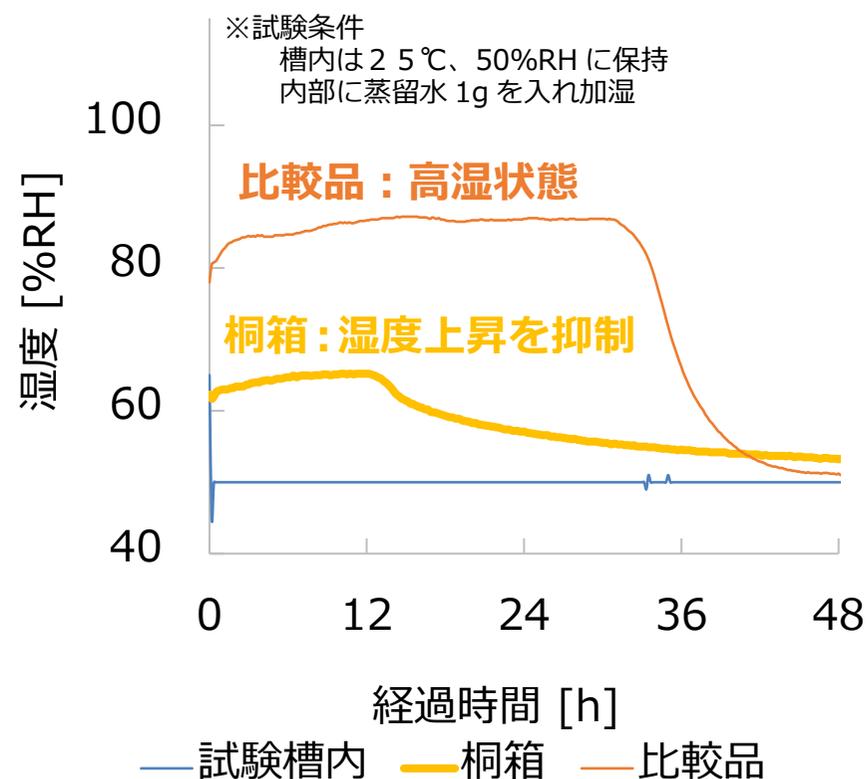


図2 供試品内の湿度変化

## 解決すべき課題

桐等の木材は室内の湿度が高いと材面から吸湿して湿度を下げ、低いと材面から放湿して湿度を上げる調湿性があります。会津桐を使用して桐箱を製作している企業では、その箱内部の湿度がどのように変化するか客観的なデータを持っていませんでした。

## 研究内容

恒温恒湿槽により外気の温湿度を制御し、このときの桐箱内部の温湿度の経時変化を計測しました。少量の水分を桐箱内に

導入し、湿気を充満させた状態から試験を行いました（図1）。

## 結果・まとめ

密閉性のある比較品の内部は80%RH以上の高湿状態を長く維持しますが、桐箱は内部の湿気を吸収し、湿度が上昇するのを抑制しました。この結果から桐箱内の湿度は50~65%と安定していることが分かりました（図2）。この結果は桐箱製品の調湿性能のPRに使用されています。

**詳細な試験研究報告書はこちら！**

ハイテクプラザ 試験研究報告書

検索 

・「会津桐を使用した木製葬祭用具の調湿性能評価」

お問い合わせ窓口 TEL : 024-959-1741 (代表 : 産学連携科)